

文献調査マニュアル [特に論文]

どのようなときに論文を使うのか？

論文の良さは、「専門性」と一定のボリュームを持つという意味での「情報の厚み」である。「速報性」「コンパクト性」では新聞に劣る。しかし、pdfで閲覧可能な論文の場合、多くの人を読みやすいという意味で、「情報へのアクセスのしやすさ（手に入りやすさ）」は、図書よりも高い。専門分野の論文になると、情報が高度になる。その分、読むのに苦労することもある。

国内の論文の調べ方

●CiNii(サイニイ)

検索ソフトで「cinii」と入力して、ciniiのサイトへ行く。

自分の調べたいキーワードを入力し、「**本文あり**」のタブをクリックし、検索ボタンを押す。

一覧が表示されるので、興味のある論文を選び、その論文の枠内にある「**機関リポジトリ**」をクリック。

発行機関のサイトに移動するので、そのサイトの中にある、PDFファイルをクリックすると、本文が読めるようになる。(発行機関サイトごとに、形式が異なっている。「本文リンク」となっているサイトもある)

☆文献についての情報(巻、号、ページ数など)が分かりやすいので、引用文献リストを作る時に便利。

●Google Scholar(グーグル・スカラー)

検索したキーワードが用いられている論文の中で、よく引用されている論文などが上位に出てくる。

⇒「まずどの論文から読めばよいのか？」という時に手掛かりとなることが多い。

*「引用元」から、その論文が引用されている論文を読むことができる。

「☆」の隣に「P」のマークがある。「P」をクリックすると文献の詳細情報が出てくる。

これをコピーして引用文献リスト作りに役立てると良い(ただし、情報が足りない時もある)。

●J-STAGE

「Google Scholar(グーグル・スカラー)」「CiNii(サイニイ)」では掲載されていない論文がヒットすることもある。

基本的に学会誌の論文を検索するのに向いている。「月間アクセス数ランキング」が参考になるときがある。

海外の論文の調べ方

●Google Scholar(グーグル・スカラー)

日本語だけではなく、海外の論文等も探せる

まとめると…

- ① まず、関心のあるキーワードが分かれば、「CiNii(サイニイ)」「Google Scholar(グーグル・スカラー)」「J-STAGE」を使って、pdfで閲覧可能か確認する。pdfで閲覧可能な論文を先に集めるといい。↓
- ② それでもなければ、直接、googleなどを使って、論文タイトルなどで検索する。
→「CiNii(サイニイ)」などではpdf閲覧可能になっていなくても、サイト上で直接見ることができるときもある。↓
- ③ 上記の検索をしてみても、閲覧が不可であれば、大学であれば大学の図書館で探す。 *今回は除外 ↓
- ④ 閲覧可能な資料がないか、再度キーワードを変えながら、検索する。
◎ FWに行った際に、専門家の方にどのような文献を読めばよいか聞く。

文献を読んだ後には…

- ① 「ワークシート；論文をまとめよう」を活用しよう！
→ 内容のところは、箇条書きでも構わないので、後から見つた時に、自分自身が思い出せるように書こう！
※ しっかりと「リサーチクエスト」と「アンサー」を見極めることが大事です！

→ しっかりと、「著者、出版年、論文タイトル、雑誌名と号数、何ページ～何ページ」を書いておく！！
※ 今後プレゼンテーションや個人論文を執筆する時に、参考にしたり引用した論文・書籍は明示しなくてはなりません！ 「どの論文からとったかわからない or どの本の何ページかわからない…」ということも、研究をする時の困った「あるある」です！

☆ **丁寧に一つ一つ記録することが、これからの作業を楽にします！**

【引用・参考資料】法政大学 田澤実HP「文献の探し方@法政大学」
<http://www.i.hosei.ac.jp/~mtazawa/ref/paper.html>